

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200253		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホーム ほのか・八代		
所在地	熊本県八代市本町四丁目2-28		
自己評価作成日	平成27年 3月22日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成27年 3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年に生協法人のグループホームとして開設し平成25年9月に社会福祉法人へと法人格が移管しました。開設から5年経ちますが、みなさん長く入居されておられるのが特徴です。食事は安心・安全なグリーンコープの食材を利用し、時にはほのかの畑で採れた野菜を使用します。おやつ作りなどは利用者さんたちと一緒にすることもあります。誕生会はその方の誕生日に合わせて手作りのケーキでお祝いします。春の花見は朝からおにぎりを利用者さんたちと一緒に作って出かけます。お盆は近所の利用者さんたちの菩提寺3か所に墓参りに伺います。街の中心地に位置するので商店街や史跡などにも出かけられます。地域との関わりも大切に地域の祭りの時は出店します。妙見祭りの際は神幸行列をほのか前で利用者さんと一緒に見物し地域の方たちと触れ合う機会を持っています。楽しく生活できるように利用者さんの声に耳を傾け、スタッフみんなで話し合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域との付き合いを大切に考え、地元町内会に入会しており、町内会の一員として総会や懇親会にも出席しています。また地域の神社の祭りでは、グリーンコープ本体の支援も仰ぎながら手作り品やリサイクル品、食バザーなどを行い、地域の人々との交流を行っています。また、社会福祉協議会からの要請があったということですが、校区福祉会で「認知症になられても楽しく暮らせるために」という演題で講演を行っています。日々認知症介護に携わる専門家が話す事で、認知症への理解が進み、特別なことではなく、より身近に感じられたことだと思います。今後も機会あることに、このような地域貢献に取り組んで欲しいと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの基本理念は、開所時にスタッフみんなで話し合っ	理念は4項から成り、事業所が目指す支援の在り方及び支援を行うにあたっての心構えが謳われている。毎朝の申し送り時に唱和を行っており、気持ちを新たにして支援に取り組むよう努めている。理念は、いつでも確認できるように、台所横の壁面に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内の総会や懇親会にも参加した。地域の神社の祭りの際は、グループ内のワーカー達と手作り品や、リサイクル品、食バザーなど行った。	町内会に入会しており、総会や懇親会にも参加している。地域の神社の祭りでは、マドレーヌやお菓子などの手作り品、石鹸や食器などのリサイクル品、食バザーではぜんざいや赤飯・豚汁などを出品し、祭りを盛り上げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協からの要請で校区福祉会の講師を務めた。「認知症になられても楽しく暮らせるために」の演題で話をした。グループホームでの暮らしを通して認知症への理解など、地域の方たちがより身近に考える機会が持てたのではないかなと思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂き、参考にしている。会議と併せて4月は地域包括支援センターの作業療法士を講師に迎え介護予防教室を開催した。11月には、地域の祭りの際、バザーを行い、利用者も参加した。	運営推進会議は偶数月に行われており、参加者は町内会長、婦人会分会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター長、利用者家族となっている。内容としては、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見や助言をもらっている。会議と併せて介護予防教室なども取り入れている。また昨年の11月には、塩屋神社の大祭でバザーを行っており、利用者も参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護保険制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	運営推進会には、毎回長寿支援課の職員が参加している。その際、相談や報告を行っている。また、それ以外でも相談の必要性が出てきた場合には、その都度連絡を取り、助言をもらっている。また、市が主催する研修会には積極的に参加している。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成し、職場内研修を行った。玄関の施錠は以前は行っていなかったが、市街地の道路に面していることもあり、防犯上、日中も施錠することがある。	職場内研修は管理者が講師となって行っている。また、熊本県地域密着型サービス連絡会でも、年に1回は行われており、参加した職員は職場に持ち帰り復講を行い、周知徹底を図っている。その他、法人の本部でもスキルアップ研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職場内研修を行い。利用者の尊厳を大事にすることを日々心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用者が1名。入居当時、日常生活自立支援事業を利用していたが、成年後見制度利用に移行するに伴い、市長申立の手続きから鑑定の同行などの支援を行った。成年後見人とは日常的に連絡を取り合い相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議でも報告相談し、運営に反映させている。家族会ではアンケートを取り、要望については職員に周知した。意見箱も設置している。	家族が遠方にお住まいの利用者も数名おられるが、連絡を取りながら年に1回程、家族会を開催している。家族会ではアンケートを取り、意見や要望の聴取を行っている。寄せられた意見や要望については、運営推進会議や管理者会議、介護リーダー会議で報告・相談し、運営に反映させるようにしている。	家族にしてみれば、なかなか本音は言いにくいと思います。今後共、謙虚に耳を傾ける姿勢と話しやすい雰囲気づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見要望などノートに職員が、記入している。職場会議で職員と話し合い、了承されたことは、反映させている。	管理者は意見や提案があれば、いつでも話を聞くようにしている。またノートも備えており、職員は必要な時にいつでも記入できるようになっている。内容については、職員会議で話し合い、可否を決定している。これまでにシフト関係や備品購入などについては職員の総意で行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表者は月1～2回の本部での会議で管理者からの報告となっている。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、年間研修計画をたてて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告、研修を行い職員で共有している。介護福祉士修得に向け受験対策講座を本部にて開催。受験料、交通費の助成制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ加入し、研修会など参加し、情報交換を行っている。グループホーム協会の全国大会にも2名参加した。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話なども併せて、これまでの生活習慣や馴染みのものを聞きだし、自宅にいるような雰囲気になづけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の不安なことや要望などを聞き、家族の想いがケアに活かせるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯物干しや洗濯たたみ、生け花、調理の盛り付けなど家族の一員として、毎日一緒に行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にある。来訪された際はホームでの様子を伝えている。行事の案内もし、共に楽しく過ごしてもらっている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時に「ほのか便り」と併せて職員の手書きのお便り(近況報告)を配布している。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院や薬局、ご近所への買い物など支援に努めている。お盆には、近所の寺3か所の墓参りは恒例である。	近所の方がよく顔を見せに來られるようである。また、元同僚だったという方やお弟子さんだったという方の訪問もあるようである。その他馴染みの美容室を現在も利用している方もおられる。事業所としては、馴染みの人や場との関係継続を出来るだけ支援しており、お盆の墓参りは恒例となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活を大事にしながら、利用者同士仲良く過ごせるように努めている。男性が1名なので孤立しがちだが、みなさんとのゲームに誘ったり、誕生会の際は、一緒にテーブルで食事するように促したり、花束を渡す係を担ってもらったりとみんなの輪に入れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでにほのかで看取りを行い一の方が、亡くなられた。亡くなられた後もご家族の職場が近所であることもあり、会うと挨拶を交わしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、なにげなく言った言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している。言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	例えば、今度の誕生会では「何を食べたいですか」と質問してもなかなか希望を聞き出すことは難しいとのことである。そこで事業所としては、個人サービス提供記録を利用している。何気なくグラタンと言われたり、あんま屋と言われたことなどを記録に書き止め、活用している。言葉での把握が難しい場合には、表情や態度から推察したり、家族からの情報をもとに希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。	家族が遠方にお住まいの方や、成年後見人制度を利用の方もおられ、面会時や電話による意向の聞き取りを行っている。職場会議やケア会議で本人の様子を話し合い、ケアプランを作成している。モニタリングについては、職員全員の目で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々々のニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い的確な病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療機関とも連携を図っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時の付き添いについても職員が対応している。保険証も事業所で預かっており、電話連絡後、受診支援を行っている。また多くの利用者が、認知症の専門医を受診しておられ、適切な治療を受けている。夜間の対応については、協力病院と連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職員は相談しながら個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。介護リーダーは看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、入院の手続きも職員が行い、入院中も頻繁に病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2年前に看取りした際は十分な看取りに関する指針もないままに看取りに入ってしまった。今年度は、「重度化した場合の対応についての指針」を作成し、家族会にて説明した。ほのかでの看取りを希望される利用者には同意書も頂いた。	市からの指導もあり、重度化した場合の対応について指針を作成し、家族会で説明を行っている。看取りに備えての職員のスキルアップについても、看護協会の研修や外部研修、また職場会議の中などで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急救命講習の受講や出前講習など実施した。職場内での訓練は、まだまだ不十分なので、今後は定期的に訓練をするように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに協力を呼びかけている。年2回消防避難訓練を実施し、1回は、町内会にも案内し、町内会長も参加された。	年に2回、消防避難訓練を実施している。2回とも自主訓練となっている。夜間を想定して行う場合は、職場会議と併せて行っている。また、町内会にも案内しており、町内会長の参加を得ることが出来ている。非常時の備えについては、飲料水や乾パン、乾麺類などで、ローリングストック法で行っている。	災害はいつ発生するかわかりません。日頃から防災意識の徹底と訓練に取り組む姿勢の再確認をお願いします。まずは、災害を出さない事ですが、特に夜間の避難訓練を考えた場合、通路に物が置かれていないか、蛍光テープなどで避難通路を明示するなどしてみたいかがでしょうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には敬語を使うように心がけている。スタッフによって馴れ馴れしい口調になっている場合もあるが、個人の尊厳を守るような声かけをするように話し合っている。居室に入る際は、利用者に声かけして、入室している。	職員によっては馴れ馴れしい口調になっている場合なども見られ、指導を行っているようである。管理者の話しでは、基本的なところで部屋に入る際の声掛けや丁寧な言葉使い、また部屋を開けていないといけない利用者や電気を点けていないといけない利用者など、それぞれの希望に添った支援を心掛けていくということであった。言葉使いについて、特にトイレや入浴支援時の声掛けに注意するという職員の話しもあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉掛けに心掛けている。利用者の自己選択、自己決定を大切にするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、希望に添えるように、柔軟に対応するように心掛けている。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分でできる方には自由に使える環境を整えている。訪問美容や馴染みの美容院利用を支援している。外出の際は、ご自分で服を選んでもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気、食に努め、食べたいものがあれば、メニューに追加したりと工夫している。利用者の能力に応じて、食事の盛り付けは毎回、おやつ作りなどは時々利用者と一緒にやっている。	朝食と夕食については職員が交代で、また昼食についてはデイサービスと合同で食事担当の職員が作っている。食事形態については、利用者の状態に応じてミキサー食やキザミ食のように個別対応を行っている。また食事がおいしく食べられるように好物を取り入れたり、盛り付けに参加してもらったり、体操を取り入れながら支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすりおろしミキサー食など工夫している。食が進まない方にはゼリーやプリン、好みのパンやジュースなどを差し上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしている。日中は布パンツのみや布パンツにパット着用、夜間は紙パンツで対応など自立に向け支援に心がけているが、重度の方のトイレは介助で、抱えることで身体に内出血や血腫が見られたので中止している。	時間による声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。行っても出ない場合もあり、ひとりひとり細かな対応が必要との事である。完全な自立は難しく、自分で行かれる方でも見守りは必要とのことである。日中は布パンツで、夜は状態に応じて布パンツ、リハビリパンツ、おむつとそれぞれとのことである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、便秘ぎみの方にはバナナや乳製品、乳酸飲料など食事による便秘予防に努めている。全員、毎日牛乳を飲んでいただいている。		

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される方は毎日入浴している。時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、ゆずや菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。	入浴回数は週に3回を予定している。希望があれば、毎日でも可能のようである。お湯はひとりひとり入れ替えており、気持ちよく入浴してもらう様支援している。また、リフトによる入浴の方もおられ、その場合は2人の職員で対応している。職員によると、まず転倒などが無い様に安全面に注意していることと、湯加減は自分の手で確認し、次に利用者の足から体へかける様に注意しているとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調節、布団干しなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・目的・用法・容量また病状の変化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できるようにしている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は、利用人名・日付など声に出して確認してから与薬し、飲み終えるまで見守るようにしている。飲み込みの悪い方にはゼリーで溶いたり工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を利用者と一緒に行ったり、生け花をお願いしたりとその方が役割を持って生活できるように支援している。歌や民謡の好きな方、トランプの好きな方などその方の好みを聞き出し、生き活きと暮らせるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に同行したり行事の際は、利用者からの意見をもとに博物館、アーケードの催事、ショッピング、外食など企画し実施した。また青森(出身地)に行きたいと願う利用者の声を聞き、家族とも連絡を取り合い旅行を実現した。	事業所は、とても利便性の良い場所にあり、買い物や博物館見学、アーケードの催事見物、また墓参りなど気軽に出かけることが出来るよう支援している。日常的に食べ物や衣類、さらにみんなで食べるおやつなどを買って出掛けている。また、敷地内には菜園もあり、玉ねぎやサツマイモ、じゃがいも、西瓜など季節折々の野菜などを栽培しており、利用者も楽しみにされている。	

グループホーム ほのか・八代

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名以外は職員が預かっている。一名の方は財布にお金を入れていることで安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話せるようにしている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて、名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね、複数のご家族に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に庭に咲いた花や季節の花を活けてもらっている。フロアーの壁には季節感ある飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。	元生け花の先生をされていた方もおられ、室内のあちらこちらにキレイな花が飾られている。壁面には、利用者と職員で一緒に制作した季節感のある作品も飾られており、室内の雰囲気がとても和やかであった。また室内環境にも配慮しているとのことで、加湿空気清浄器の設置や床暖房の設備も整えられている。その他、手すりや取っ手などを、毎日アルコールにて消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや一人掛け椅子、テラスでその日の気分に応じて思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居る雰囲気大切に、畳の生活に慣れている方は畳を置くなどご家族や本人と相談し、馴染みの家具や身の回り品など置くようにしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室の基本的な設備は空調機器、ベッド、クローゼットとなっている。寝具や家具、その他調度品については、使い慣れた物を持って来てもらうように話している。部屋には、自分の好きな物を貼ったり、テレビを置いたりして、居心地良く過ごせる様な工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで共有部分には手すりを設置。床材が木で、クッション性がないので、転倒しないように見守っている		